

ホタテガイ採苗速報

早めの稚貝採取によりケガのない 体力のある稚貝を育成しましょう

1 各地採苗器への付着状況

7月10日～17日に行った第2回臨時付着稚貝調査の結果は、図1～3および表1のとおりです。

ホタテガイ稚貝の平均殻長(間引き後)は、西湾で3.22mm、東湾で2.96mmでした。

1分5厘のフルイで残る稚貝の割合は、西湾で22.6%、東湾で5.4%、2分のフルイで残る割合は西湾で6.5%、東湾で0.6%でした。

2 水温の状況

各ブイの7月12日～18日の日平均水温は、表2のとおりです。平年と比較すると、15m層の7月第3半旬平均水温は、平館ブイ、青森ブイで平年並み、東湾ブイでやや高めとなっています。

3 今後の見込み

稚貝の大きさから判断して、1分5厘のネットに稚貝採取する場合は西湾で来週、東湾で再来週、2分で採取する場合は西湾で8月初め、東湾で8月上旬からできる見込みです。ただし、付着数や間引きの時期、今後の水温の動向によって成長に差があるので、稚貝の成育状況を見ながら作業を進めてください。

高水温時には稚貝がエネルギー不足でへい死すること、採苗器の袋の下に稚貝が溜まると異常貝率やへい死率が高くなることから、早めの稚貝採取によりケガのない体力のある稚貝を育成するようにしましょう。

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻りに交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温(下記URL、QRコード)を参考にしながら26℃を越す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくっつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。分散が遅れると異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ(50～100枚/段)に入れましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり(土俵)やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

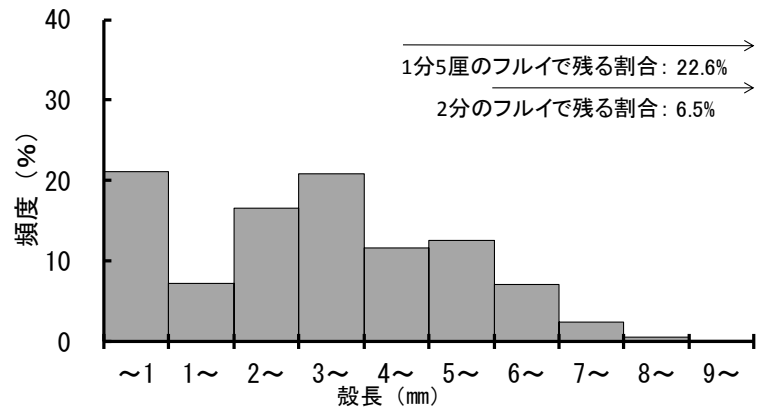


図1 ホタテガイの殻長組成 (西湾平均)

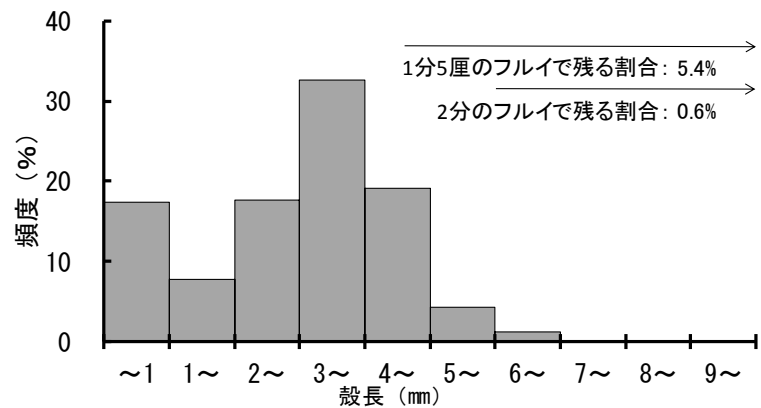


図2 ホタテガイの殻長組成 (東湾平均)

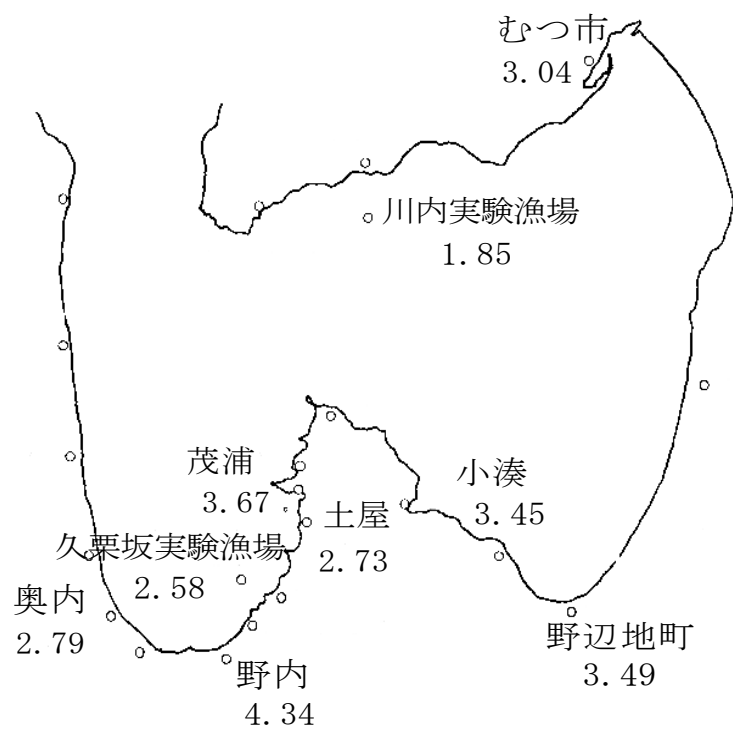


図3 調査地点毎の平均殻長 [単位: mm]

